

Asia Indicators

発表日: 2025 年 12 月 12 日(金)

韓国の雇用は年代、形態でバラつきが鮮明に (Asia Weekly(12/8~12/12))

~20 代、非正規雇用を中心に雇用調整圧力が強まり、労働市場への参入意欲が後退する動きも~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

| 発表日 | 指標、イベントなど | 結果 | コンセンサス | 前回 |
|----------|-------------------------|--------|--------|--------|
| 12/8(月) | (中国)11 月輸出(前年比) | +5.9% | +3.8% | ▲1.1% |
| | 11 月輸入(前年比) | +1.9% | +3.0% | +1.0% |
| 12/9(火) | (オーストラリア)金融政策委員会(政策金利) | 3.60% | 3.60% | 3.60% |
| | (台湾)11 月輸出(前年比) | +56.0% | +41.1% | +49.7% |
| | 11 月輸入(前年比) | +45.0% | +17.5% | +14.6% |
| 12/10(水) | (韓国)11 月失業率(季調済) | 2.7% | -- | 2.6% |
| | (中国)11 月消費者物価(前年比) | +0.7% | +0.7% | +0.2% |
| | 11 月生産者物価(前年比) | ▲2.2% | ▲2.0% | ▲2.1% |
| 12/11(木) | (フィリピン)金融政策委員会(翌日物借入金利) | 4.50% | 4.50% | 4.75% |
| 12/12(金) | (マレーシア)10 月鉱工業生産(前年比) | +6.0% | +5.1% | +5.7% |

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]~高齢層と若年層、正規雇用と非正規雇用など、雇用を取り巻く環境のバラつきが一段と鮮明になる~

10 日に発表された 11 月の失業率(季調済)は 2.7%となり、前月(2.6%)から 0.1pt 悪化している。失業者数は前月比+3.0 万人と前月(同+1.6 万人)から 2 ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。年代別では、50 代で唯一減少する動きがみられるほか、60 代以上の高齢層は横這いで推移する一方、40 代以下の全ての年代で拡大する動きが確認されている。一方の雇用者数は前月比+1.9 万人と前月(同▲13.5 万人)に大幅に減少した反動も影響して 2 ヶ月ぶりの拡大に転じているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きをみせている。年代別では、10 代のほか、60 代以上の高齢層を中心に拡大する動きが確認できる一方、20 代で減少の動きが続くなど若年層の雇用環境は引き続き厳しい状況にある。雇用形態別でも、正規雇用に底堅い動きがみられるものの、非正規雇用で調整の動きが続いており、非正規雇用を取り巻く環境は厳しい。なお、労働力人口は前月比+0.5 万人と前月(同▲1.2 万人)から 2 ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、年代別では 20 代を中心に減少が続くなど、厳しい雇用環境が続くなかで労働市場への参入意欲が後退している様子がうかがえる。

図1 KR 雇用環境の推移

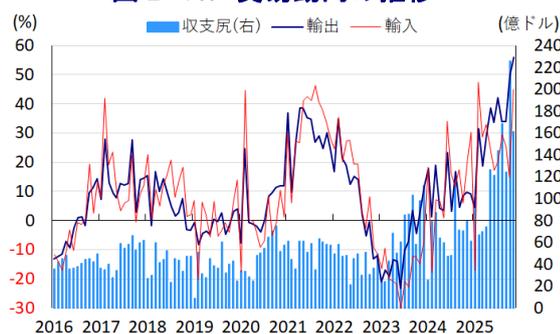


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～トランプ関税の本格発動の影響が懸念されたが、半導体などを中心に輸出は底入れの動きが続く～

9日に発表された11月の輸出額は前年同月比+56.0%となり、前月(同+49.7%)から伸びが加速した。前月比も+5.9%と前月(同+10.9%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連で堅調な動きが続いているほか、金属製品関連や化学製品関連といった素材、部材に関連する分野の輸出も底入れの動きを強めるなど、幅広い分野で輸出が拡大する動きがみられる。国・地域別では、トランプ関税の本格発動による悪影響が懸念された米国向けが引き続き堅調な動きをみせるとともに、最大の輸出相手である中国本土向けも旺盛な推移をみせているほか、日本向けも底堅く推移する動きが確認されている。一方の輸入額は前年同月比+45.0%となり、前月(同+14.6%)から伸びが加速している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。財別では、輸出の堅調さを反映して素材や部材に関連する分野のみならず、機械製品関連など幅広い分野で輸入が拡大する動きがみられる。結果、貿易収支は+160.85億ドルと前月(+225.78億ドル)から黒字幅が縮小している。

図2 TW 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～製造業で生産底打ちも鉱業部門の生産は下振れ、発電量も下振れするなど景気に不透明感～

12日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比+6.0%となり、前月(同+5.7%)から伸びが加速している。前月比は+0.62%と前月(同▲0.87%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、頭打ちが続いた流れに変化の兆しがうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移しており、流れを大きく変える状況とはなっていない。製造業で3ヶ月ぶりの拡大に転じており、主力の輸出財である半導体など

電子部品関連の生産は堅調な動きをみせる一方、自動車など輸送用機械関連の生産は力強さを欠くとともに、石油化学関連などの生産は弱含むなど、分野ごとにバラつきが生じている。その一方、原油や天然ガスなど鉱業部門の生産は下振れする展開が続いているほか、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も3ヶ月連続で減少しており、足元の景気は頭打ちの様相を強めている様子が見えてくる。

図3 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。